

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

市民クラブの谷口です。最後の質問者になりましたけれども、時間、十分やらせていただきたいと思います。

私は今回、先ほど質問の中であっておりましたように、限界集落の問題。これがですね、町の真ん中におきましても、そういう問題があります。私に取り上げようとしておりましたのはですね、いわゆる中心市街地の再活性化についての中で、私はこの問題を指摘をしておきます。なぜかという、実はいわゆる商工業者の意味での限界とか、農業の限界集落とかっていうふうな意味とは違いまして、実は町の中心部でもですね、孤独死というのがいくつもあります。この1、2年の間に何件かの、そういうですね、本当にかわいそうな死がございました。そういうことはもう一つ、角度を変えて言いますと、要するに町の中のそういうですね、商店街の中でも、空き家対策の問題が出てくるような大きな問題の中で、中心市街地、町の中心部がですね、そういう状況になっているという実情の中で、そういう問題をですね、どういうふうな取り上げ方をするかと、どういう形の中でそういうものをですね、解消をしていくか、それも1つの大きな市政の課題だろうという気がいたします。そういう意味で問題の質問をしていきたいと思います。

項目の順番でいきますとね、教育行政、その中で特に学校教育の中の反転授業についてをですね、ポイントにおいて、お尋ねをしていきたいと思います。

また、歴史資料館と図書館の問題はですね、本当に避けて通れない大きな課題でございます。そういう問題の中で、いつも取り上げておりますけれども、さらに角度を変えて、こういう問題があるんだということを、指摘をしていきたいという気がいたします。

さらに文化行政と住民参加でございますけれども、やはりですね、町っていうのは住みやすい町、住みたい町、それがですね、いかに日本一であろうが、日本2番であろうがですね、本当に住みたいと希望された方が、住んでみてよかったと思われるような町でありたいと。そういう気持ちから、まちづくりについての提言なり、あるいはものの考え方をお尋ねをしていきたいという気がいたします。

さらに、福祉の生活環境の整備につきましてはいろいろな問題がございます。例えばですね、町の中で今一番大きな問題になっているのはですね、犬の問題と猫の問題です。本当に角度を変えていきますと、本当にですね、まさに野良猫の横行で、町の中の市街地がですね、非常に困っている状況。しかしそれも一面に考えてみますと、猫が増えたということは、猫を大事にしてくださる市民も多いということでございますので、そういうふうな問題についてもですね、どういう形の中で、行政として、していただかなきゃいかん問題もありますし、また市民が取り組まなきゃいかん問題もあると思いますけども、こういう問題があるんだということをですね、きちんと指摘、お示しをしていきたいと思います。

それからさらにですね、先ほど申しましたように、市街地がいわば限界集落的なですね、

いわゆる農山村だけなんです、町の中もそういう状況であって、町の活性化がですね、失われています。そういうのを再活性化するためには、どういうものをやっぴり考えていくかということについては、やはり議会としても執行部に対してお尋ねをし、同時に、まちづくりのために共に頑張っていかなきゃいかんという気がするわけでございますので、この点についてもお尋ねしたいと思います。

それから先ほど言いましたように、住んでみたい町から、住み続けたい町、あるいは住んでいてよかったという、そういうですね、町にするためにはどうしたらいいか。単に道路とか、あるいは建物だけの問題じゃなくてですね、教育もそうですけれども、本当の人の気持ち、心の持ち方をやはり、このような中で問題として考えるべき課題があるような気がします。

最後に市長の政治姿勢についてお尋ねをするということで、今回1時間半の時間を十分に使わせていただきたいと、このように思って演壇に立ったわけでございます。

まず第1にですね、反転授業についてお尋ねを先にしておきたいと思います。この場所からお尋ねしてるのは、先般、私はですね、反転授業について、実は山内東小学校に参りました。しっかり勉強させてもらって、教育研究実習があつておりまして、本当にすばらしかったと思いました。単にですね、県内だけでなく、ほかの県からもお見えになったような気がしますけれども、いろんな方々が、現場の勉強にお見えになっておりまして、真剣にですね、研究がなされておりました。子どもたちも、なんと申しますか、公開授業ですね、物怖じすることなく、堂々と、しかも本当にこう楽しい学習状況だったような気がいたします。

ただ、その中にも問題点がいくつかございました。そういうの含めて、お尋ねしたいと思います。現在ですね、この反転授業の、この間のなんと申しますか、公開授業についてですね、どういうふうな感想、考えをお持ちですか、それをお尋ねしていきたいと思ひます。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

1月に山内東小学校で2回目の反転授業を行ったわけですが、そこには、第1回目初めて武内小学校で行われたときの課題解決という問題をひとつ大きく取り上げました。

何が、武内小学校のときに課題だったかというところでですね、その先生方が予習でつくるコンテンツが、やっぱりすごく時間と労力がかかったと。これを、より効率的にやるにはどうした方がいいんだろうということが、大きなテーマでした。ですので、山内東のときには、それを多分ですね、武内のときは、企業とのやりとりは30回くらいあったかと思いますが、それをかなり激減して4回くらいのキャッチボールでコンテンツがうまくできて、今度はそれを持ち込んで、より話し合い、学び合いが上手くできる授業なんだろうと、ということで効率化とさらに授業の充実ということでテーマとしてやってきました。その点で言うと、その2

つともですね、ずいぶん第1回目の武内小学校の反転授業よりも、課題が解決され、また向上も見られたというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

24番 谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

私もですね、授業に、部屋に参りまして、片隅から勉強させていただきました。本当に子どもたちも本当にこう、生き生きして、先生方もですね、本当に意欲的な取り組みをなさっていることを感じて、本当にすばらしかったと思います。

ここにお見えになってる各学校の先生方っていいですかね、関係者の方々もですね、うんうん、と一生懸命ですね、こう、うなずきながら聞いていらっしゃいました。主に私はああいうふうな形の中ですね、まあいわば、復習、あるいは、予習、復習することによってですね、子どもたちのその学力の向上とか、それからまたいろんな問題、ものの考え方に対する、非常に幅広い分析ができると、それが大きな成長に役立つだろうということについてはですね、すばらしかったと思いました。

ただ1点ですね、気になったのはですよ、もう、あんなに一生懸命子どもたちしているんですけども、確かにですね、山内の子どもさんたちはですね、非常に感心したことが2つあったんですよ。1つはですね、授業の中身の前に、1つだけですね、もう本当にこうすばらしいなと思ったのはですね。私は高齢のために、のろのろ運転で運転して、どっかに駐車をしようとしたわけですけどもその時に、雨がもう降り出しましてね。駐車場もちょっと少しあれだったんですけども、子どもたちがですね、ちょっと停車して、こう、駐車場を探してますと、2、3人の子どもが来てね、こっちがいいです、こっちですよって、丁寧に教えてくれるわけですよ。あいさつもいいですね。あの学校ですね。ほかの学校もそうだと思いますけれども、私はね、こうなんかこう、心温まる気持ちで会場へ入りました。そういうふうな状況でございまして、やっぱりこの学校がいわゆる、何て言います、ほかの学校もいい学校でしょうけども、まあ、そういうふうな公開授業にですよ、本当にぴったりの学校だなという気をして、私も——ただ1つだけ気になったのはですね、勉強においでになった、各参加者の皆さんのことだったわけですよ。

各学校の先生なり関係者の方々も一生懸命ですね、勉強で。尺度はよくわかったんですけども、ちょっとですね、例えば、じゃあこの問題について、と言ったときにですよ。子どもたちがタブレットで集団で、グループでやりかかったときですよ。カメラのフラッシュがするわけですよ。そうするとですね、大体1つの部屋にですね、大体100人から200人近くの人がこう詰めかけてらっしゃいますから、一斉にカメラが。そしたら問題が提起されるたびにカメラがピカピカピカするわけね。1回に、100ちょっと80人が撮影スタートされてですよ、しとるんで、160、ニハ16、160ぐらいのですね、カメラのフラッシュの中で、子ども

たちはなんか一瞬戸惑う状況でした。しかし、30分くらい経ったらですね、大体もう慣れたんでしょね、そういう気持ちだったからほっとしましたけれども、そういうふうによっぱり、ああいうふうな公開授業ちゅうのはそういうもんだらうかなという気はしたんですけどもね。その点はどうなんですか。実施されるのはわかります。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

ちょっとやっぱこう、認識が違うなと思いますね。私もまあ多くの議員さんもお越しいただいたときに、あの人数でよく平穩にできたよねっていうのが、私たちの認識だったんですね。これは当時いらっしゃった古川盛義議員さんも、同じことをおっしゃっていたっていう記憶があって、まあ、確かにカメラもあったんですけど、それはかなり、お越しになられた方々が、意識が高い方々が多かったので、僕もあとで、子どもたちと話しましたが、なんか邪魔なねって聞いたら、いや全然って言うので、まあもともと、山内東も武内小学校も慣れてるんですね。はい、もう非常に慣れてますので、そこは、子どもたちをもう少し信頼されたほうが僕はいいと思うんです。

確かにね、そうは言っても、あれだけの人が、こう200人、300人お越しになるっていうのは、ちょっとやっぱ想定よりはるかに超してましたので、これについては、先の一般質問でもお答えしましたが、今度12校かな、小学校は、11校。11校に広がっていきますので、そういう意味でこう、オープンデーをもう少しやっぱこう、多くすることによって、だんだん、こうお越しになる方々が、やっぱお越しになる方々も慣れていきますし、その量もお越しいただける数もね、少なくなっていくと思いますので、まあそこはわたしは全然心配はしていません。

ですので、そういう意味で言うと、私としては、まあ、ただそうは言ってもいろんな感じ方がありますので、それを一概に否定するつもりはないんですけども、私自身はずっと見ていて、まあよく抑制が取れた自律的な対応をお越しいただいた方はしてくださったなっていうふうに認識をしておりますし、繰り返しになりますけども、子どもたちもね、なんか喜んでましたよ。テレビ局のカメラ指して、これ全国放送ねって聞いてましたもんね。まあだから、我々が思っているよりたくましいということです。

○議長（杉原豊喜君）

24番 谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

市長はなんか、角度の美しく曲がった考え方をされるなと思うんですね、私は。私が、申し上げてるのはですよ、そういうふうな子どもたちの真摯に頑張っている姿、それから反応、そういうものについて、私はすばらしかったと思っています。それを申し上げているわけです。

ただ、せっかくであればね、本当にカメラを持つ人たちも要は1回、2回それを写してその結果をですよ、持ち帰って、みんなにこういう状況だと報告してあげたい。それはわかりますから、私も写してると思いますよ。しかし、そういう状況でなくて、そういう状況がもう時間中続いとったわけですから、極端に言えばですね。そうなったときに、やはり、研究授業発表の仕方についてもですよ、やっぱり子どもたちのことを考えていくことが、モルモットとかあるいはですね、そういうふうないわゆる観客のための授業勉強してるわけやないわけですから。そういう点をですね、せっかくのすばらしい行事がですね、そういうことで残念だなと。子どもの立場に立ったとき、あるいは保護者の立場に立ったときそう思いました。市長はね、子どもはそれは、むしろテレビに映ったとか、喜んでましたって表現されますけれども、私はそういうふうな子どもの対するものの考え方じゃなくて、私なりの考え方でお尋ねしているわけですから、できればもう、市長よりも、教育長から御答弁をいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

実際に、2回目の山内東の来校者数、350名ですね。当初ですね、1回目の武内小学校のとき200名だったので、そんなに来ないだろうというふうには思っていたので、その部分でいうと、さらに1.5倍ということに関しては、少し見込みが甘かったなというのは正直反省をしております。

実際には、武内小学校のときにはサテライト教室で、その教室に入らなくても見れるような環境整えましたが、山内東のときにはですね、4教室もあるので、まあ何とかなるだろうというところの、少し見込みの甘さについては反省をしております。

ただ、前提としてですね、それだけ注目を浴びているということ、肯定的にとらえておりますし、また大勢の方々がいる中で、先生も授業をする、子どもたちも堂々と授業をすると、いうその機会については非常に大事なかと、いうふうには思っています。ただ、その大人達のマナーに関しては、もう少し事前に配慮をするようなやり方もあったかなというふうには思いますが、繰り返しますが、ちょっとこんなに多くも注目を浴びてきてくれるというところの、想定外の部分があったので、以後は、来年度以降は配慮していきたいと思いますが、先ほど市長の答弁にありましたように、来年度からは11校に広がりますので、その負担はずいぶんもう、最初から軽減されるんじゃないかなというふうには思います。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

24番 谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

まあ誤解はされないと思いますけど、私が申し上げてるのはですね、そういうふうな学習

効果っていいですか、それからまたそのこと自体はすばらしかったということ、評価した上で話ですから。ただやはり、観覧者のマナーですね。みんなそういう学識、経験、子どものための気持ちを御存じの方ばかりの集まりでしたから、あまりにもですね、すばらしく、賑やかなフラッシュの中で、子どもたちが戸惑いがなかったのかと。しかしあれを戸惑いなくしたというのは、やっぱり山内の子どもたちはすごいですね。そういうふうな気持ちがあります。この点についてはこの程度でいいですよ。

問題としてはですね、今後そういう授業がですよ、どういう形の中で進められていくかですね。ちょっと、前段ですよ、前段のちゅうか、この今回の一般質問の中でもそれについてお話をあつておりましたからですね、あえてそれ以上申し上げませんが、そういったような取り組みの中で、やはりそういう予習復習というものについてね、やはりこう、保護者の方で考えている中には、こういう問題があるんですね。例えば、じゃあ学校でどういうものを予習してくるかの勉強、あるいは復習するかっていう問題点は指導していただいていると思いますけども。やはり最近はですね、少子化とかの関係でいわゆる兄弟がいないからですね、兄ちゃんと妹と話すとか、お姉さんと話すという機会の少ない子どもたちも結構いるんじゃないかと気がするわけですよ。そういうときに、学校から帰った後ですね、いわゆる保護者さんとの勉強の仕方、そういうものが、いっぺん慣れてくると、親なんか邪魔になるぐらいに子どもたち一生懸命なると思いますけども。

しかしそういう点についての配慮とかですね、そういうものはどういうふうになっているかですね、その点をお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

ただいまの質問については、後ほど教育監から、説明いたします。先ほどのマスコミとか参観者のことについてはですね、2点だけお話をさせていただきます。

武雄市の各学校では、非常に研究事業等頻繁にさせていただいております。大変ありがたいと思っておりますが、このときには、必ずその学校の子どもたちのために一番役に立つものでないといけない。その学校の先生方のために役立つものではないといけない。参観者は二の次だという言い方で、すべて進めてきております。

それから、2つ目はですね、マスコミとか参観のフラッシュ等々ありますけれども、反転授業の場合は家庭との関係もありますので、取材については、厳しい指導を教育監からしてもらっております。行き過ぎがあった場合には、実際に私のほうに謝罪に来てもらったこともあります。

そういう形で、今後もですね、取材等、あるいは参加の仕方については、お互いに注意しながらやっていきたいというふうに思っております。

[24 番「議長、24 番」]

○議長（杉原豊喜君）

答弁いいですか。

[24 番「あ、失礼しました。どうぞ、ごめんなさい。おねがいします」]

代田教育監

○代田教育監〔登壇〕

家庭での関係性という御質問だったと思いますが、まずあの反転授業の一つのいいところというか、特筆すべきところは、従来の勉強方法だと学校で教科書の 26 ページから 48 ページまで読めなさいというのが、スタイルだったんですが、タブレットで音声と動画ができるということで、これが家庭で、お父さん、お母さん、おじいさん、おばあさんと一緒にできるという機会が視覚、目で見える形でできるというのは大きいと思いますので、よりその家庭での、どんな勉強をしてるんだろうと、いったところの共有であったりとか、学校に対する興味関心の湧いている部分では、非常に有効な勉強法だというふうに思います。

さらにですね、逆に言うと、そういう家庭での連携を前提とすると、やっぱりもう一つの不安としては、そういうことができない家庭に関してはどうするのだと、というような御不安もあるかと思いますが。これについては、今、家庭ではどうしても難しいという子どもたちに対しては、その前日の放課後児童クラブ等でですね、地域の人たちが教えていこうというような体制をつくろうというふうに思っていて、どうしても、やっぱり家庭での勉強が前提になりますが、そうした環境が整わない子どもに対しては、セーフティーネットをつかっていこうというふうに考えています。以上です。

○議長（杉原豊喜君）

24 番 谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

今、教育長と教育監の説明受けまして、そういうふうに、いろんなこう取り組みをしていただいていることについてですね、わたしも安心、安心とおかしいですね。十分、理解をいたしました。

ただあの、やはりあれだけの人に囲まれて、研究発表するということになると、さすがにですね、子ども達も戸惑いが全くなかったとはいえないような気はしましたけども、それも体験ですものね、確かに体験ですから。あれ以上のことが、あれくらいのことが滅多にあるかといえば、ないもんですから、多分ですね、すばらしい体験になったと思います。そういう意味ではですね、やっぱり子どもたちの成長にはプラスになると、いう気はいたします。

問題はですね、今度は学校教育に関連して、タブレットの件はとりあえず結構ですけども。実はですよ、今度は中学校の問題に関連してまいりますけども、実は、今、青陵の中学校が

あります。何年か前に、高校から切り替わったわけですけど。そういうときにですね、実は中学校の教育の内容等についてですよ、結局県立の中学がなくなったとします。そして、私立の中学校とか、それからまたほかの市外、県外の中学校に行く子ども達とか、そういう問題がですね、あ、早稲田がありましたね、もう一つね。そういうふうな問題等がですね、いろんな問題が関連して出てきて、武雄の中学校の生徒たちの進学状況ですね、中学、高校、そしてまた大学進学状況等についてですね、やはりいろいろと、こう何と申しますか、保護者としては危惧、心配してることもあるようにお聞きしておりますけども。現在中学校から高校に進学する状況ですね、そういうものはいかがになっていますか。資料は請求いたしておりますので、お知らせをお願いしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

中学から高校でありますけれども、地元の武雄高校、そして近隣の杵島商業、有田工業が多くて、嬉野、それから塩田工業、白石、そして伊万里方面の各校というふうな進路状況でございます。これは、皆さん方、考えられてその状況というのは、御理解されている状況かというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

24番 谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

今、教育長から答弁いただきましたけれども、私が資料としていただいたものの中にですね、武雄高校、青陵高校、武雄市内の高校、前までは3つあったわけですけども、現実には今一つですね。

実は先日、県議会の一般質問の2日目に、私佐賀県庁県議会に行って傍聴にまいりました。その中ではですね、あとでこれは質問しますけれども、文書館の問題と、それから高校再編の問題等が質問の中で出ておりました。やはりこう市民の中にもですね、いろんなそういう問題についての大きな関心があるようです。

私の質問の前に、上田議員さんも高校の進学の問題等についても触れておられましたけれども、実はですね、この中学校の青陵中学校が、いわゆるできたときにですよ、武雄市内の中学校の子どもたちの3年生のいわゆる先生方の中でですね、やはり学級経営なり、いろんなですね、子ども達の学習なり、そういういろんな部活を含めたことについてですね、いろいろと悩みがあり、問題が、問題っていうか悪い意味での問題ないんですけども、問題点がいろいろあるような気がしたというふうな感じを、私たちはPTAの方やいろんな保護者を通じて、そういうことをお聞きしましたが、現実問題として例えば、じゃあそのAという学校から、例えばじゃあ頑張っている子どもは、いきなり、その学校の中学校に行かない

で、県立の中学校に行くとかですね。そういうことによって、中学校の、武雄市内の中学校の学級経営とか、そういうふうなもの、子どもたちのいわゆるそういう何ていいますか、動揺とかですね、あるいはまた、学習の効果充実というものに、影響がいろいろあるんじゃないかというふうなこともお聞きしますけども、その点についてはどうなんですか。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

青陵中学校の進学についてですが、これはこれまでの議会等でもさまざまに御意見をお聞きしてまいりましたし、小学校での進路の指導というのは、青陵中ができてから、本格的に必要なになったという状況は確かにあります。

ただ、各中学校とも校長先生方中心にですね、地元の中学校でもこんなに楽しいんだと、元気出るんだという形ですね、いろんなことを頑張って特色を持ってですね、精一杯頑張っていたらと。ですから、まあ進路の選択をされるという形に、なっているかなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

24番 谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

私の手元にある資料ではですね、平成15年から17年度までについてはですね、それぞれ高校進学、武雄高校、武雄青陵高校、市内の高校ということになっております。ですけども、中学校についての資料はですね、やっぱりその3年間は青陵中学の名前が出てまいりまして、記録がございませんけども。とにかく、やはり中学の生徒自体が減少している、人口減で減少しているという中で、そういうふうな、各武雄中学あるいは各周辺の中学校でもですね、そういうふうな中学から進路指導——小学校の進路指導の問題が出てくるという問題があって、そういう、どういうふうな取り組みをなさってるかですね、教育の内容に関するものですから、私達は全幅の信頼を置いてお任せするしかないわけですけども。

実は、県立高校の再編問題が出てきたときにですね、実は本当に中学が武雄からそういう青陵中学ということになったためにですよ、その武雄中学の生徒。あるいは北方ですね。それから山内の中学の生徒。そういうふうな方々、北中もそうですけども。生徒からですね、そういう、例えば青陵中学校に進学するため、あるいはいわゆるその次の大学進学を絡めての話でしょうけども、そういうふうな問題で、市内の中学の生徒の中からそういうのが、そうした子たちが選抜されていくということになったときに、なんかこう子どもたちの学習の方法とか、あるいは地域の状況とかってっていうものに影響はあるんじゃないかとか、そういうふうな問題もいろいろと一部お聞きしました。

私も体験がありますけども、私は武雄の中学校、旧制の中学校があったときですね、進学

をしました。でまあ、私は話し下手でしたから、実は口頭試問で落ちまして、高等1年っていう、昔はですね、小学校6年からあとはですね、高等1年、2年とあったわけですよ。高等1年に行って、また改めて中学に受け直して、武雄の中学校に入って高校、学制改革で切り替えになって、ていうふうな形の、いろんな体験を持ってるわけですけども。その中で、やはり中学校に友達が入ってしまったら、高等1年——尋常高等小学校の6年、7年生っておかしいですね。1年生になったときにですね、学級の状況というのが、雰囲気はずいぶんやっぱり違って来たわけですよ。そういうことを考えましたときに、そういうものに対する対応はね、1つは学校の対応と同時にですね、実はもう一つ大きな問題があるのはですね、武雄から人材が遠くに行ってしまうことやなかろうかと。地元の学校に行って、自分のところの家業を継ぎ、あるいはまたそういうふうな地域の仕事に就くっていう人達がですね、今度は、じゃあ県立の高校行った、あるいは県外の高校に行ったということの中で、そういうふうなね、いわゆる次の世代の人たちの人口の流出があるんじゃないかなろうかと、そういうふうな問題も当然出てくるわけです。その年はね、わずかに20名か40名か50名であったにしてもですよ、どんどんどんそれが、そういうふうな方が外に出て行ってしまうということになると、やはりこれもですね、人間も大きな武雄市の資産ですから、市にとってはですね。そういう問題も出てくるんじゃないかっていう気がして、あえてお尋ねをしてるわけです。

県での論議はですね、県立高校の再編に絡んでですね、どうしてもですよ、武雄だけですよ、高校が1つしかないのはね。御指摘、この間あったように武雄だけしかないんですよ。今まで3校あったのがですよ、女子校も含め3校あったのが、今武雄高校1校になっていると。そうするとですね、鹿島もいくつもありますよね、伊万里も唐津も、もちろんですね。そういうふうにして、周辺のところには、みんな高校が2つ以上あるわけですから、そうなったときに、教育を中心的な役割を果たした武雄がですよ、本当にですね、いわゆる単に高校が1つしかないことだけが問題ではなくてですね、そういうことによって、人材の流失とかですね、そういうものが、起こってんじゃないかなろうかと、起こる可能性あるんじゃないかなろうかって気がします。

そこで、高校は今再編によって、きのうの話の中でも高校増やしたりすることに対しては、いかがかかっていうような話等も、いかがかかっていうか、その可能性の問題については言及をそれ以上されませんでしたけども、本気でですね、例えば企業誘致をですよ、例えば大企業を誘致して、あるいはまた一生懸命頑張ってもらって、そしていわゆる経済を活性化するか、市のそういうのも浮揚させるということも大事な課題ですけども、教育環境を整備することによって、人材が武雄に残る、あるいは武雄からそういうですね、教育を受けて出ていくというですね、そういう問題がですね、前の質問者も申しておられましたように、そういうふうな大きな問題がやっぱりあるんですよ。だから非常に地味に見えても、これはですね、

本当に武雄が宇宙科学館をつくったときの運動のように、あるいは歴史資料館運動を展開したときのようにですね、もう市民運動をしてでもですね、今からどうしても高校再編問題はまだ出てくるわけですから、絶えずくすぶってる課題ですから、その問題、その取り組み方についてですね、どういうふうにお考え、これを市長にお尋ねをしたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

たくさんの質問が入ってございましたけども、最後の質問についてお答えしますと、再編につきましても、武雄市の場合、1校になっておりますので、表に出てこないわけでありまして、私としましては、杵島商業とか、有田工業、嬉野につきましても、学校別にみますと、地区別にみますと、武雄からの子どもたちの率っちゅうのは非常に高いわけでありまして、通学、あるいは経費等の面から考えましてもですね、注目しているところであります。

特に合併を計画してあるような学校につきましてもですね、また今後もですね、来年の10月ぐらいがめどと聞いておりますけれども、また考えていきたいというふうに思っております。

[24番「市長はどうですか」]

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

教育長と同じであります。

○議長（杉原豊喜君）

24番 谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

教育長と同じ考えということございますので、そういう問題についてはね、もう本当に市をあげて取り組みしていただきたい。

そしてまた、本当にこう、これだけですね、知名度があり、元気のいい頑張り屋さんの市長ですから、みんな市民がバックアップして、全部ですね、本当に武雄に教育環境をもう一つつくりたいと、そういう運動をですね、本当にこう全市一丸となってやれるテーマですから、その点についてはですよ、やっぱり今から取り組みしとかんとですね、そのときになって追いつかんのですよ。そういう気持ちがあるもんですから、あえて質問の中に加えさせていただいたということでございます。

とにかく、そういうことで、前向きに取り組んで思い切ってやっていくと、そのために市民を結集してやるのはですね、喜んで私達も参加します。そういう気持ちでございますので、

ひとつ前向きに思い切った活動をしていただきたいと思います。

次に移ります。ここにですね、先ほど申しましたように県立の公文書館の話が出てまいりました。私、きのうですね、あるお葉書をいただきました。古藤さんという方で、県の教育長をなさった方です。そしてですよ、同時に今はですね、どういう立場でお手紙をいただいたかっちゅうと、県立の公文書館をつくる会の会長さんをしていらっしゃるということでございました。

私は、樋渡市長が就任されて間もなくですね、実はこういうことをお話しを、提言をしたことがございますが、お願いしたことがございますけども。武雄にあるですね、いわゆる、古文書とか公文書、特にですね、合併によって各市町村が抱えていたそういうふうな古文書なり、公文書っていうものがですよ、散逸してしまうと。活字でとじてあるのはですね、紙だって紙質ボロボロになってまいりましょうし、いろいろ問題ありますね。製図も、それをその電子と言いますか、そういうふうなその新しい技法で、いわゆる紙じゃなくてですね、そういうふうなもので収録するというそういうやり方が適正ではないかという論議は今まであっておりました。私はそのときに、ちょうど合併によってですね、山内もたくさんの資料がありましたし、北方も武雄ももちろんございました。それぞれの行政資料を含めた公文書が、それぞれ十分に保存されていれば結構ですけども、なかなかですね、そういうのもずっと1つの場所で保存するのは大変だということ、恐らくですね、役所は大体、何年以上になるとそれを処分するという形であります。昔はそういうものについてですね、まあいわゆる記録としてはですよ。そういうふうな、なんと言いますか、ファイルに入れてっていうことがですね、できなかった時代でしたから、なかなか大変だったと思いますけども。そういう中で、いつか申しましたように、例えば私、この間県立図書館のほうから、非公式にですね、私が持っておりました、いわゆる武雄市がですね、幕末、あと明治維新のときですよ。武雄が、佐賀県がですね、もういわゆる伊万里県になったり、長崎県になったり、三潁県になったりしてですね、もう県そのものがなくなった、なくなろうとしたときがありました。そのときのものをですね、私は一ノ瀬家ですね、古い家ですが、昔貴族の町長さんの家から預かっておりました、いわゆるそういう教科書がですね、長崎県立、県の武雄中学校という、大きな公印の押さった資料をですね、市長にお見せして、そのときにこういうものが、大事なものがあから、ちょっとそれを収蔵し、あるいはなんですかそれを含めてですね、ほかのところの、もう全国からでも集めても、そういうですね、まあ体育館をですねいくつもつくったぐらいの、いわゆる公文書館とか収蔵施設をつくることによって、それも観光事業や学問の振興に役立たんだろうかっていう提言をしましたけれども、そのときはできませんでした。しかし、あれから9年たちましたから、もう一つ課題としてですよ、取り組んでいてもいい問題じゃなからうかいう気がしたものですから、あえて、県立の公文書館ができる前に、武雄で公文書館を開いて、とりあえず県ができるまでうちが預かりますよと、そう

いうふうな、ものの考え方っていうものをですね、できないんだろうかということで、市長にお尋ねをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

やっぱり昨今の市民の皆さん達の意見を聞くと、やっぱり消費税が上がって生活がしんどくなる。あるいは、これから子どもたちが大きくなって、学費に物すごい額がかかってくる。しかし一方で所得がそんなに上がらないといったことがある。ですのでそういった意味で言うと、優先順位からすると、僕は全くそれは否定するわけじゃないんですけども、まあかなりやっぱり低いですね。やっぱり、行政というのは360度、森羅万象やっぱりしなきゃいけないし、それは予算を伴う話でありますので、優先順位をちゃんとつけてやっていきたいと。

そして、やっぱりですね、まだまだ借金がもうたくさんなんです。そういった今、箱物をつくるとなると、それはやっぱり20億30億かかってしまうと。これは恐らく議会もそうですけれども、果たしてその市民が、本当にそれに対して、そういった公文書館に対して、いいぞ、ということをおっしゃってくださるかどうかっていうのは、私は、甚だ疑問なんです。全く否定しているわけじゃないんですけども、そういったことで、私も、やっぱりもし次を担わせていただけるとするならばね、市長着任した8年前に、市長着任したときの420億の借金を今300億近くまで返しています。

そして、基金の総積み増しも80数億円を今113億円まで積み上げています。そういった中で先ほど申し上げたとおり、政治っていうのは優先順位の話です。ですので、それをやっぱりこう、困っておられる方々に、きちんとその配分をするということが、やっぱり今一番先なのかなということをおもっております。ですので、私が今、まあ次どうこうするっていうのは、もうここで、一般質問で私が言える話ではないですので、私の考え方とすれば、優先順位としては極めて低いということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

24番 谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

武雄市が財政的に、まあ優先的にほかの施策をするということについてはですね、結構です。それはそれで優先順位があるでしょう。ものの考え方は、武雄市のお金を使うという判断からするから、そうことになるんじゃないですかね。私が申し上げたのはですよ、前段申し上げましたように、例えば県立の宇宙科学館をつくる時は、県立ですね。武雄市が出したお金は、ほとんど、あんまりありませんよ。あれ100億近く県が出しました。今度公文書館をつくらにゃいかんと、県内いっぱい声があるんですよ。だから佐賀につくらんで武雄

につくってくれという運動を、市長さんならできるんじゃないかなろうかという気がしますけども、いかがですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、むしろそれよりも白岩の体育館。まあこれは先の議会でも申し上げましたので、これ申し上げていいと思うんですけども、例えば白岩体育館であったりとか、あるいは武雄市の文化会館で、よくよく考えてみれば佐賀県西部にそういう県立あるいは、県と市が出し合った複合施設っていうのはないんですね。ですので私はそっちを優先しようと思ってます。

これはもとより、一応これ議会、優先順位という先ほどちょっと私がね、すごい上から目線で申し上げて恐縮だったんですけども、これ議会とよく相談する話ですので、議会と優先順位をつけてやっていきたいと。そして私も、何度もお願いもしたこともあります。いろんな事で、国にいたときはお願いを受けた場面もございます。自治体さんから要望を受けて、例えば県とか府とか都から要望を受けて、査定をさせていただいたこともあります。そういった中で、あれもこれも要望するようなどこってのは、もうはなからもう問題にしないですよ。ですので戦略的に、武雄市としては、これこれを優先したと。それがかなうかは別にしてもね、そういった中でも優先順位っていうのは、そういう公文書館については否定するわけじゃないんですけど、極めて低いということを、申し上げたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

24番 谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

まあ今の市長の考え方はそうだと。しかし、あしたになると変わらんもんでもないですから。要するに問題はね、市民の気持ちがそこに一致すればですよ、市長はせんわけにはいかんでしょからね、極端に言う。まあそういう表現はおかしいですけど、ちょっと今の表現が適切じゃないですね。要するにそういうふうに、市長にやってほしいという要望が高まってくればね、それは無視できない問題ですから、いわゆる例えばそういうふうに、県にそういう呼びかけをすとかね。そういうことは、だから今、県立公文書館についてはですよ、まだ、建設する場所とかそんなんも決まってないそうですよ。ですから、せっかくであればね、そういう問題を、とにかくそのなかなか、地味な仕事ですから、華やかじゃないですからね。それはなかなか取り組むのも大変だと思いますけども、非常に歴史的に次の時代に大事なものだとは私は思います。ですから私たちがこういう発言をしないとね、やはり若い人たちというのはまだ、感覚の違いがあると思います。でも古いものを大事にしとかんとみんな若い人も年とってくるわけですよ。ですからそういう時代のためにもですね、きちんとやっぱり問題は提起しとかんといかんという気がしますので、まあそういうお答えではなからうか

と気がしながらも、あえて申し上げときます。これは絶対に記録に残しとくべきことだというから、あえて私は申し上げているわけでございます。

非常にですね、公文書館の問題は、とにかく今、いろいろ多分インターネットでいろいろ集録してあった。例えばじゃあ、貯金ですらですね、どこからか侵入したんですか、ウイルスによってですよ、なんか何百億とかいうお金ががっぺんに消えてしまったとかいう、そういうふうな時代ですから、やはりこれは単なるデータとか記録とか、そういうものでなくて、きちんともので残しておくことが大事じゃなかろうかという気がして、どうしてもありませんので、本当に地味な、極めて地味な質問ですけれども、あえて申し上げておきたいと思います。武雄では、こういう問題についても取り上げて取り組んでいるんだということですね、やっぱり、もうみんなにわかっていたきたいわけですよ。

そして、佐賀県中の方々もですね、すごい方がいっぱいいらっしゃいますから。そういう点について、一つそういう取り方を県として今後、頭に入れといていただきたいと思います。

次に移ります。歴史資料館の問題ですね。図書館・歴史資料館の問題ですけれども、私のところにですね、なんかこういっぱい、難しい問題よくわからんのですけれども、いっぱい資料がまいました。これいちいち読むとですね、何時間もかかりそうなものですが、ちょっと読みきれない問題もございまして、千円図書館についてというデータはですね、69 ですね。70 件ぐらいインターネットでこうきたわけですよ。これは何にもその、1,000 円しか値打ちがない図書館という意味じゃなくて、1,000 円は持って行かんと、もったいなくて行けない図書館だぞという表現の意味合いのもので、たくさんあります。お金がかかるということでしょうね、恐らく。

こういう問題についても参りましたし、なんかですよ、やっぱりそれぞれ武雄は注目されてますので、市長が注目されると同時にですね、武雄の議員の発言もそれぞれの方々、いろいろ注目される方もあると思いますけれども、この中で、いわゆる、いろんなですね、みんな考えよう、民意が試されてる、ということですね、武雄の千円図書館まとめサイトというのが送ってきました。私もどなたから来たのかよくわかりませんが、この中でやっぱりですね、やっぱり子どもたちが、あるいは、しっかり勉強できる環境づくりのために、いろんなことがありますけども、そういう問題いまだにこういう形であるんだということだけはですね、こうも、とりあえず申し上げておきたいと思います。

同時にですね、図書館の問題で1点だけです。もう、私はそう多くを申しませんが、確かにですね、雰囲気もいいし、私も図書館も何回かは行きました。歴史資料館で展示等も拝見してもらいましたけども、本当にですね、蘭学のことはずばらしいと思いますし、また蘭学にとってもですね、いろんなものがいっぱい出てまいります。そういう中でですね、どうしてもやっぱり見ておって、寂しいのはですね、展示する場所が数が多すぎてですね、そして場所が狭いということですね。本当にですね、もっとやっぱり思い切って、まあ強い

ていえば、市長はあまり、不愉快になられるかわかりませんが、例えば、ビデオの借り場所等をですね、ある一定の時期は返していただいでですね、そしてあるいは、ほかの場所にお金かけてつくられても結構ですよ。つくってその分だけちょっと移して、もともと蘭学館っていうね、蘭学の展覧会するとに蘭学館の看板は、はずされてるわけですから。蘭学館という、蘭学館の中でですね、例えば大砲も、あるいは、とにかくそういう、日本の夜明けをつくった、武雄の文化、歴史、そういうものをですね、きちんとこう展示することによって、あれだけの人間がですね、武雄市図書館にお見えになるんですから、世界中の人が注目する図書館であれば、なおのこと、世界中の人に注目される歴史資料の展示場があってもいいんじゃないかという気がしてなりませんので、もう多分お答えを、気にしながらあえて質問をいたします。どうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まだ、指定管理者先のCCCとすり合わせているわけでもなんでもないんで、これは私の私見として申し上げたいと思うんですけども、やっぱり図書館というのは、止まったらだめだと思うんですね。やっぱり人間と一緒に、成長する図書館で。それもその時々、やっぱり市民の皆様方、あるいは来館者の方々、ツイッターで騒いでいる人は、こんな無視していいと思うんですよ。ですので、実際お越しの皆さん達がね、ここはこうしたほうがいいよねというのがあればね、それは、まあ財源にも相談しなきゃいけないし、議会にも当然のことながら相談しなきゃいけないんですけど、それは、変えていく必要があるだろうと思っております。

私は何も今、旧蘭学館で今、CDとDVDがあるじゃないですか。まあ7万点ぐらいあるんですけど、それはそのままいいと思ってはないんですね。ですので、今要望が多いのは、あそこで例えば、私いくつか聞いているのは、キッズスペースがお母さんたちからほしいよねといったこと。あるいは、どうしても今、蘭学展をやっておりますけれども、そうすると、メディアホールが使えなくなっていますので、なかなか、例えば講演とか集会が今しにくくなっています。文化的な。だからそういう場にしてほしいなっていう意見とか、まあいくつかかきてますので、それにやっぱり応ずる必要はあるだろうと思っていますので、昔の蘭学のままに、つくったら終わりではなくて、やっぱり市民の皆さんの意見を快く聞いて、どんどんやっぱり変えていくと、修正していくということが私は大切だと思っていますし、これもやっぱり議会とよく相談をしたいと思っています。そして、私どもの考えを指定管理者のCCCともよくすり合わせをして、市民目線に立った図書館にさらにしていきたいと、このように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

24 番 谷口議員

○24 番（谷口攝久君）〔登壇〕

今、市長のおっしゃることはよくわかります。ただね、結局そういう問題の中でも、いくつか問題点があるような気がいたしました。私は、例えばあそこでお茶も飲みますし、コーヒーも飲みました。それはそれで快適な環境です。ただ問題はですね、ちょっと気になったのはですよ、読書を私たちは、どうも、音楽を聴きながら読書をしていた習慣がないものですから、非常に無粋で申し訳ないけれども、音楽が、何もその、どこが図書館向きの音楽を編集して、あるいは流してあるのか、ようわからんのですけれどもね。コーヒーを飲みながらまではいいですよ。本を読む、まあ本を汚さなきゃいいわけですから。それはいいです。音楽を聴きながらコーヒーを飲む。それもいいわけですよ。音楽を聴きながら、コーヒーを飲んで、本を読むてなると、ちょっと問題があるような気がするわけですよ。て言うのはですね、（発言する者あり）なんか、そうか、叫ぶ者ありですね、わかりました。じゃあ、そういうことですね、その私が申し上げているのはですよ、結局ですね、いわゆる、読者は静かに読みたい人もいらっしゃるわけですよ。ですからね、やはり、そこらの音楽を、いわゆるスターバックスですか。その、喫茶部門にですよ、音楽のことをお任せしないで、これはやはり、本を読む人たちを中心に考えていただいてですね、コーヒー飲みたい人は、それは行ってもらって、せつかくできたおいしいコーヒーですから。私も飲みましたけども、いいんですけども、四六時中音楽を流すということについてはですね、私はそこまでですよ、そのいわゆる、委託事業というのは、音楽のことまで、やっぱり委託しているわけですか。実際上ですよ、問題になっているのは、本当のすばらしい読書の環境をつくるのが大事ですけども、そういうことが気になりますが、その点はどうですか。これは、教育長ですか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

指定管理者の実務の最高責任は私でありますので、まあ指定管理者のその施設を管理するのは、所管は教育委員会ですけれども、これ議会で説明するのは、これ大部分は私の役割だと思っていますので、その観点で御説明しますとね、全館で、別に音楽、全部かけているわけじゃないんですよ。例えば奥の読書室、あるいは2階のね、学習室については、音楽が聞こえない構造にしています。特には2階は100%聞こえない。1階の奥のところも100%聞こえない。というふうになっていますので、スターバックスの席の部分であるとか、あるいはちょっと奥の部分が少し、奥っていうか、入ってから、子育てのスペースですよ。そのちょっと手前まで音楽が聞こえるというふうになっている。

これは、今度5月に出す本にちゃんと書き込みますけれど、なんでこれをしたかという、2年前の5月の集会のときにね、これからこういう図書館にしたいということをお願いして、

まあ、2時間ぐらい終わった後に、主婦の方が私のところに寄ってこられたんですね。そのときに、今の図書館だと子どもを連れて行けませんっていうことだったんですよ。それ、なぜかというと、やっぱり泣いたりしたときにね、非常に来館者のほかの方々に、なんかこう、ストレスが、自分自身がかかるといふのと、やっぱり子どもがさらにその環境になると、もうやっぱり子ども、よくわかるんですよ。もう二度と図書館に行きたくないというので、市長さんできれば子どもがいるところは、少なくとも音楽をかけてほしいっていうこと。しかも、大人も親しめる音楽をしてほしい。そうすると、わめいたりしてもね、音楽が緩衝材になるというような言い方をされたんですね。かつ、今御覧になってわかるように、図書館でいろんな打ち合わせもされていて、あとお母さんたちが、女子会を図書館の中で、こうされたりとかね、していて。僕はこれ図書館の本当にあるべき姿の一つだと思っているんです。もちろん、本を静かに読まれるっていうニーズについては、先ほど申した通り、それは場所を変えればいいだけの話であって、それはやっぱりさまざまな方々に、全部じゃないにしても、きちんとニーズに応えるっていうのが、樋渡市政の根幹でありますので、そこはぜひ、今度席をずらしていただいて、本をね、読んでいただければありがたいと思います。全部自分と同じというふうに思わないほうがいいと思います。もちろん、その音楽があって、よかったっていう方々もいらっしゃればね、あなたのように、音楽がないほうがいいという方もいらっしゃいますので、それはそれぞれの場所がありますので、それぞれの場所で、自分のその欲求を満たすっていうことが、今の図書館だったらあり得ると思っています。昔の図書館は一律でした。音楽もかかっていないし。だから今は多様性です。やっぱり一番公共施設でも重要なのは多様性であります。ですので、その多様性に応じて、まだまだ課題があることは百も承知していますが、我々はそういった図書館サービスを行う必要があるだろうということでCCCに対しては、そういった市民の切実な声を踏まえて、私のほうから、準備期間のときにCCCに対してお願いをしたということが経緯でございます。

○議長（杉原豊喜君）

24番 谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

まあ、多様性の問題は結構ですけれども、私はですね、自分で音楽聴くの嫌だからということをお願いするわけやないんですよ。（発言するものあり）そういう要望、そういう気持ち、それが利用する方々の、市民の声として、何人もからお聞きしたから、あえて問題点として提出しているわけです。私は意外と環境人間ですから、対応をしますよ、いろんなことで。音楽鳴りながら、本読まにゃいかんなら、そういう読み方も方法としてはありますよ。ただ、音楽の種類とか、程度とかいろいろありますからね。そこはあえて申し上げませんが、そういう問題があることだけは、きちんと申し上げておきたいと思います。

次に参りますけれども、実はですね、現在、私図書館に何回か行ってみまして感じたのはで

すね、こんなこといいだろうかと思って心配したんですよ。ていうのは、やはりそういう歴史上の、整理とかなんとかはですね、通路であってましたもんね。物品を開いて運搬する通路で、そういう分類資材を。結局はですよ、メディアホールというか、そういうふうな、いろんな準備する部屋も少なくなっているから、どうしてもそうなるんでしょうけどもね。実際ですね、その古文書にしてもいろんな資料にしてもですね、それを物を運搬する通路まではみ出さなきゃいかんようなことではですよ、本当に貴重な本をですね、預けるとかいうことができなくなるんじゃないかなろうかという気も一面いたしました。

それは私のいわば、なんていいますか、杞憂であればね、それはいいんです。しょうがないでしょうけども、そういう問題点もあるということは、要するにスペースが足りないんじゃないかなろうかという気は私はいたしました。

図書館が今非常にみんなに評価をされていることを、全てを否定するわけではないんですよ。それはそれとして評価をしながらも、もっとよくするためにはですね、いろんな方法を考えていくべきではなかろうかという気がしました。特に蘭学館の収蔵品の問題でもですよ、あるいは、大砲にしてもなんにしても、常設の展示ができればですね。そして、またメディアホールが極端に、もう一つなければということもおかしいですけども、なんかこう、方法があればですね、その解決する問題でなかろうかという気も一面いたします。

同時に最近ではですね、メディアホールの入り口のほうで、水飲み場がありますね。そういう水飲み場についてもですよ、例えば、いつかも指摘しましたように、ただ、子どもがですよ、ぶら下がって水を飲まにゃいかんような状況じゃなくてですね、せっかくならひとつ、子ども達もコップで飲めるようにしてあげるとかね、そういう心の気配りをしたらね、環境も子どもたちにとっては必要じゃないかというふうな気も一面いたしました。しかし、予算の関係とか、いろんなね、運営上の問題で、いろいろこう考え方あるでしょうけども、あえて指摘だけはいたしておきたいと思います。同時にですね、実は、5時になると、みんな子どもたちとしては帰してほしいということではいかがですかという話もしておりましたが、ちゃんと、もう5時になりましたと。だから、1人で来てる人はお家に帰るようにしてくださいとかね。丁寧な放送があっておまして、一安心をいたしました。やはり今からですね、夏になりますと、今はまだ暗くなりますから、つい5時になったのを、音楽聞いても聞かなくてもそういう感じでなりますけども、今からは明るくなりますと、どうしても夜遅くなったりしますので、子どもの非行の問題とか、あるいは非行よりもですね、事故に巻き込まれないようにするためには、やはりそういうふうな、閉館時間等については、まあ、図書館が配慮してですね、丁寧に放送してもらってますので、安心をいたしました。そういうものを含めてですね、いくつ問題が、せっかくすばらしいものであれば、それをみんな生かすために、そしてまたよりよくするために、努力するのが私たちの仕事だろうという気がします。あえて、今までものをいくつか指摘したわけでございます。

次に空き家対策について、移りたいと思います。先ほどですね、松尾議員さんからもいろんな御指摘あっておりましたけども、実はですね、冒頭申し上げましたように、実は町の真ん中でもですね、限界集落みたいになってですね。そしてですね、実は、もう本当に、亡くなってからあとでわかったという孤独死というものが2件も続いて起こりました。本当にですね、だんだんだんだん、町なかがそういう状況の中になっているのを考えましたときにですね、本当にもう限界集落というものは、単に農村とか、あるいは山村だけじゃなくですよ、町の中まできてると。先ほど松尾議員さん御指摘になりましたけども。そういうふうなことを、実感として私達も感じております。

地域のコミュニケーションといいますか、本当に隣近所、いろいろ声をかけあってですよ、そういうことがないように、みんなそれぞれ努力してもらっておりますけども、やはりですね、独り暮らしのところには手が届かない。特にですね、女性の方の独り暮らしのところにはですね、なかなかこう、声をかけにくいという点もございまして、結局続いて、2つほどですね、そういうことが起こりました。それぞれ地域同士でも、やっぱり新聞が2日も入らなくなったとかですね。新聞取ってなかったとか、新聞とか牛乳取ってるところはすぐわかりますけども、そういうふうな問題でですね。非常に町側からもそういう危惧はあります。同時に町の中の活性化の問題が出てまいります。実はですよ、例えば、武雄の中心街での温泉通りはですよ、本当に温泉も、ああいう照明でもきれいになりましたし、すばらしいのでいろんな方が写真を撮りに来たりして、いろんな方がですね、温泉通りも夜遅くまで賑わっていますけども、一面ですね、やっぱり中心の市街地の中では、町の中がですね、だんだんだんだん、寂れてきてます、事実上ですね。いろんな行事が成り立たないようになって、そういう状況があります。結局ですね、それはどういうことかということ、結局それは、いわゆる市街地の再活性といいますか、例えば、こども議会でもこういうことが質問の中にあっておりましたね。昔のように、恐らく自分の親、お父さん、お母さんから聞いたんでしょう。あの温泉通りは、昔は中心のところは賑やかで、みんなお祭りのときになるともっとお小遣いもらって行ってたっていう雰囲気の中を、状況を知っているんでしょうけども。こども議会でもですね、いわゆるそういう市街地の活性化の問題を取り上げて、子どもがいました。これは発言を正確にせんといかんもんですから、こども議会の議事録をですね、教育委員会にお願いしましたけども、先般の議会では議事録がないということでしたので、その議事録に類似するものですね、私は貸してもらいました。この手元に今持ってませんけども。その中であつたのはですね、例えば子どもたちは、中心市街地ですか、そういうふうな地域の活性化のほうについてどう考えていらっしゃるでしょうか、ということ、多分、こども議会、市長も記憶あられると思います。あつたときに、市長のお答えはですね、図書館のほう、というふうな表現をされたために、子どもががっかりしとつた、というふうな話をですね記録の中でありました。今手元に……（発言する者あり）ないですか。（発言する者あり）いや、

議事録があればねそれで私はお聞きしたいと思ったんですよ。(発言する者あり) まあ質問の仕方がどうなのかは別ですけども。(発言する者あり) そういうことがあったもんですから。

(発言する者あり) 私有地、市街地の活性化の問題についてですよ、どういうふうにお考えかですね。再活性化についての、まあひとつ。いや、市長が答えられなければ、ほかの担当の所管課でいいですけども、お答えいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

あなたの御質問にびっくりしました。

びっくりしたのも、今立ち直りましたので。やっぱりですね、再活性化というのは、再というのはやっぱり難しいんですよ。人間の体もそうだと思うんです。黒岩幸生議員さんが、きょうなかなか自分はもう 65 をね、超して、したときも、もう若い人に道を譲りたいということをごっおっしゃって、まあ私はね、年齢云々ということじゃなくて、それはやる気とかいろんな問題だと思うんですけども、確かに黒岩幸生議員さんの御質問を踏まえて、そこはそうだなあっていうことを思ったんですよ。だから、その人間の体も同じなんですけど、恐らく新陳代謝っていうのがこうある。活性化と、再活性化って考えたときに再のほうが、はるかに難しいっていうのは、それは、私ももう 40 半ばにきてますので、もう 20 のときとかやっぱり十代のときとはもう全然違うわけですよ。だから、そのアプローチというか、プロセスをやっぱりきちんと考える必要があるだろうと思っていて、このときに、やっぱり考えなきゃいけないのは、今武雄市っていうのは、山内町、北方町と一緒に武雄市と、まあ旧武雄市ですね、なってますので、じゃあその開発の場所を、本当に今までの例えば武雄温泉通りだったら温泉通り——私も活性化すればいいと思ってますよ。だけど、やっぱり市民合意でね、やっぱりここをしていこうよということの議論が私はあるんだろうなというふうに思うんです。ですので、やっぱり私は周辺部を、自分がまあ周辺部出身というのもあるかもしれませんが、いわゆる周辺部に、やっぱりきちんと均衡ある発展をしないと、これからの武雄市はもう存在しないというふうにも思っていますので、そういう観点っていうのはあると思うんです。

それと、今まで旧武雄市は、大幅な借金に借金を重ねてきてね、私が市長に就任をしたときに、本当に北方町と山内町に助けられたっていう側面がやっぱりあるんですよ。で、そういった中で、やっぱり今までの旧武雄市というのは、もう、あれかこれかじゃなくて、あれもこれもやってるんですね。あれもこれもって、やっている。じゃないとね、宮本栄八議員さんね、あんな借金積み増せませんよ、はい。水道料金を高止まりしたまんまにね、あれだけ借金を重ねるっちゃうのはこれはすごいことだなと思うんです。ですので、そこはやっぱり私は、山内町、北方町の今までのそのね、やり方を真摯に、合併したんで学ぶべきだ

というふうにもう思っているんです。それとともに、どこをどういうふうに開発していくか、あるいは再開発していくかということを議論するのが、ここの僕は議会だと思っています。ですので私は、子どもたちにその図書館のことを申し上げたのは、やっぱりですね、あれもこれもというのは、もう無理なんですよ。あれかこれかしてしたときに、せつかく図書館に力を入れるのであれば、あそこは武雄神社があります、武雄の大楠があります、御船山梅林もあります。まあ、ゆめタウンっていうすばらしい商業スペースがあって、競輪場もあります。そうしたときに、今図書館に力を入れるとするならば、あわせて力を入れたほうが、私は武雄市全体の市民価値が向上するという思いで申し上げたということでもあります。これが大衆迎合のね、政治家と市長だったら、いやあ、子どもたちにね、いいこと言うねって、うん、まあ頑張ろうねっていうことを言ったと思いますよ。だけど私はね、政治ってそんな甘い問題じゃないんです。社会に出たらもっと厳しいです。ですので、私は自分の考えを申し述べたにすぎません。それでがっかりされたっていうことについてはね、私もその後、子どもたちと話しましたけれども、市長はあいすねって、普通の大人と違うですって言ったですね。はい、言いますよそら。ですので、私はそれで、その子どもたちに認められたと思うんで、あんまり一方的に子どもたちがかわいそうだとかなんとかってね、言うこと自体、思うのが、僕はかわいそうだというふうに思ってますし、もちろん、はい、大丈夫です、それは全然期待してませんので。私自身としては、何というんですかね、子どもたちのまちづくりに対する考え方は十分に生かしていきたいと思う一方で、その場所をどうこうするかっていうことについてはね、それは、先ほど申したとおり、議会、そして、市民の皆さんたちでやっぱり話し合う必要があるだろうと。あれもこれもじゃなくて、もうあれかこれかの時代がもう今真ただ中だというように思っております。

○議長（杉原豊喜君）

24番 谷口議員

○24番（谷口攝久君）〔登壇〕

私もね、あれかこれかじゃなくて、あれもこれとかいうんじゃないで、どれをどうするかっていう問題に絞ってお話してるわけですよ。何でもかんでも総花的にそれをどうこうっていうんでは、まあ、そういう気持ちは毛頭ございません。ただね、子どもたちにそういう発言をされたということは、自分でそういうふうにお感じになってることですから、嘘でも何でもないわけです。私が聞いたのは。ですから私、今ここにその部分についてのもので、ちゃんとこう記録があります。これは、教育委員会がですよ、議事録としてつくったんじゃないで、それを聞いて、そういう、その何と申しますか、ネットで収録して、それをそのまま打ち出したものをですね、私の手元に届きましたので、あえて、それを私はお聞きしてるわけです。（発言する者あり）失礼なこと言いなさんなよ。（発言する者あり）嘘じゃないですよ。じゃあ、あした私持ってきますよ、この書類を。本当に。（発言する者あ

り)

○議長（杉原豊喜君）

ちょっとやじの応酬、静かに。

○24番（谷口攝久君）（続）

失礼なこと言ってんじゃない。

○議長（杉原豊喜君）

やじの応酬はしないでください。

○24番（谷口攝久君）（続）

いつかもね、失礼なこととして、例えば前に、4本足のニワトリのときもですよ、資料なんかもちろんときちんとお借りしてきたってことをです、きちんとお示しして話してる。（発言する者あり）わざわざね、相手がわざわざ貸してやってるわけですよ。そういう事をね、わざわざ書類まで見せるまでしてるじゃないですか、あんた。（発言する者あり）そういうことをですよ、私は、もう失礼ですよ。（発言する者あり）でも私はあえてそれ以上のこと言いませんよ。（発言する者あり）まあ、私は嘘は、そういうことでは言いません。（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに。

○24番（谷口攝久君）（続）

なんで本人が承諾、本人が……（発言する者あり）

○議長（杉原豊喜君）

静かに、静かに、やじに応酬しないで。（発言する者あり）

○24番（谷口攝久君）（続）

議長……（発言する者あり）いいですか。私が申し上げているこのことからいきましょう。そういうですね、子どもたちの、だから私は、正確を期すために、子どもの議会の議事録ありますか、こども議会の議事録があったら出してほしいということを申したところ、ないということですから、そんなら、私が持っている資料に基づいて話すしかない、ということをお願いしてるわけですよ。

私はね、少々ですよ、そういうこと必ずあなたはそういう性格だから、おっしゃるだろうと思うからね、ガードを固めて質問をしてるわけですよ。（発言する者あり）また、議会終了、本議会終了までに持ってきますから、議長に提出します。私はですね、そういうふうな嘘の問題で、質問したりすることはしませんよ。非常に不愉快ですね。

次に移りたいと思います。先ほど市長がですね、中心市街地の再活性化についてっていう、私が再をつけたのはですね、一度、活性化の兆しが見えて、また昔の賑わいを取り戻した時期があったんですよ、武雄にも。ですけども、今、少しですね、そういうのが少し停滞して

いると。だから、もう一度ですね、ひとつみんなでまちづくりができませんかというふうなことですよ。その問題点を指摘し、意見を聞いてるわけですよ。ところが、再とは何かとかね、そういうふうなですね、むしろ謙虚に聞いてですよ、できないならできないでいいわけですよ、あなたの考えですから。私は、あえて聞いてるのは、そういうことなんです。

次にですね、私、今、市長、この議会で何回も申されましたけども、住みたい町のですか、第2位になったと。嬉しいことですよ、いいことですね。だから住んでいただくならば、もう本当にですね、もっともっと、そのいわゆる住み続けたいまちづくりにするためにはどうしたらいいかということをお話ししたいと思っておりましたけども、ちょうど私の予定している時間が何分かしかありませんので、これは後ほど、次の議会じゃないですね、今度までですね。まあ、次に再選したらまたやります。

市長の政治姿勢についてはですね、やはりこういう問題についてはですよ、やはりこう議会でもですね、あなたも市民から選ばれた方でしょうけども、少なくとも私たちも痩せても枯れても、年を取っても若くともですね、やはり市民から選ばれて、そのことについて当然問題提起をしていく必要があるということで、あえて申し上げているわけです。

とにかくですね、今から特に高齢者の問題が1点だけありますけども、本当にですね、実は今は高齢者比率からするとといえば、さっきからいろいろ若い人がどうのこうのと話があったりしましたが、それを領いている議員もいらっしやいましたから、あえて後ろを見て話とるわけですけども。申し上げてますけども、高齢者の比率が高いですから、高齢者の気持ちを言う、申し上げることも必要なんです。ですからあえて私は、高齢者の議員の皆さんの気持ちを代表してですね、あえて申し上げております。そういうことでございます。しかし、一応ですね、必要とする質問についてはこれで終わります。(拍手)(発言する者あり) 次に対する激励の拍手と思って感謝します。ありがとうございました。(発言する者あり)

○議長(杉原豊喜君)

以上で24番谷口議員の質問を終了させていただきます。